

Retro-Future

古くて新しい もうひとつのビンテージオーディオ

ビンテージといえば、アルテックやタンノイ、JBL、マッキントッシュなどが誌面に取り上げられる機会が多い。しかし、当時これらの老舗と肩を並べるほかの多くのブランドがあったことを知る人は少ないだろう。東京、目黒にあるビンテージショップ「アトリエJe-tee」では、音質はもちろん、デザインにもこだわった「もうひとつのビンテージ」を数多く紹介している。本企画では、同店で販売されている製品を中心に、毎号テーマとなるブランドを取り上げていこう。



Presto TYPE-75

1930年代の後期に生産された16インチプラッターモデルで、本体は同じながらポータブルタイプの75-A、据え置きタイプの75-Bがあった。プラッターの外側に巻かれたゴムの部分にプーリーを押し当てて回転させるリムドライブ式で回転は33と78回転がワンタッチで切り替えできる機構になっている。当時このタイプは録音専用のカッティングアームと再生専用の2本のアームが標準装備されていた。

第22回 Presto Recording Corporation 16"ターnteーブルの世界③

プレストレコーディング社はアメリカ、ニューヨークに1933年に設立され、1945年頃までアメリカのレコーディング・ディスクターnteーブルメーカーのバイオニアであり当時の放送局、学校、スタジオ、政府への高品質な記録装置全般を提供していた。当時まだアメリカではテープレコーダーの存在が無く、録音スタジオや放送局で使う据え置きタイプから持ち運び可能なポータブルタイプのレコードカッティングターnteーブルまで生産していた。

本文 / 田中伊佐資

製品解説 / 岡田圭司(アトリエJe-tee代表)
撮影 / 小林幹彦(彩虹舎)



33回転と78回転の切り替えレバー



プラッターの裏側に刻印されたPresto N.Y. のロゴマーク



本体上部はアルミの一体成形でできている、中央のプーリーを画面左側のレバーをプラッターに押し当てて固定する機構になっている



シャフトは少し細めだがプラッターは厚く重量感がある



□□□□□□□□
□□□□□□□□

Retro-Future

古くて新しい もうひとつのビンテージオーディオ

Presto Recording Corporation

16"ターnteーブルの世界③ / Rek-O-Kut

おそるべき余裕、感嘆すべき底力
すべてが想像以上のDDD駆動式

アメリカの放送局仕様、16インチ・プラッター・シリーズ第2弾。RCAのTYPE 70-Dの登場だ。前回のBQ-12Cと見かけはそう変わらないように見える。書き手としては、直径40cm越えプラッターはデカイぞとおんなじことを書けないから、これでは困る。しかし、まるで金庫のようなトビラを開けると、まったく違う光景が待っていた。

中央には巨大モーターがごっついボールトで据え付けられている。ターnteーブル用としてイメージするモーターの概念がくつがえった。そこから極太シャフトがプラッターに向かって直立している。途中で装着しているフライホールがこれまた超弩級サイズ。回転したらマジで危ないんじゃないか。このタイプは横軸で運動するモーターを縦軸(シャフト)に変換するギアがあるため通称ギア・ドライブと呼ばれているらしい。

アトリエJe-teeの岡田さんがプラッターを外すと、本体側に同心円状にいくつかの輪っかが組み込まれていて、輪の間にベアリングが押し込まれている。モーターは常に78回転で回り、このベアリングが転がることによって33回転に減速する。まさにアナログな仕組みだ。しかし正確な回転数を維持するのは難しいはずだ。さてどれくらい誤差があるのかと、意地悪くストロボ・スコープでチェックしたいと岡田さんをお願いしたら、ストロボは見事にビタツと止まった。

程度がいい個体で、しかもきっちり調整ができていようだ。
原始人の石器のような、物すごい雰囲気を持った右のRCAアームはメンテ中とかで、グレイ108とGEバリレラのコンビで、モノラル盤を聴いていく。前回、美空ひばりのSPを持参したカメラマンの小林さんが、今度はがっつりジャズを持ってきた。

「好きなのをかけてください」と言われたので、ポール・チェンバースの「ペリス・オン・トップ」で始めてみた。冒頭「イエスタデイズ」のベース弓弾きオン・パレードは、オーディオがしょぼいと実に退屈な演奏だ。いきなりプハーと深々とした低音をジェンセンが吐きだしてどっつきりした。おそるべき余裕、感嘆すべき底力。すべてが想像以上だった。弦の響きもいい。続くロリンズのヴァンガード・ライヴも思いっきり張り出してくるテナーに圧倒される。トミー・フラナガンの「オーヴァーシイズ」もエルヴィンがドラムと大格闘だ。

しかしこの日も大トリだった美空ひばりに全部もっていかれた。例の「港町13番地」のSP。すごいリアルティ。声や伴奏がそこに立ち、勢いよく迫ってくる。小林さんは「こんなひばりは聴いたことない」と感嘆しながら、問はず語りに「うーむ、置くところがないか。いや待てよ」とややその気になっている。小林さん、思い立ったが吉日だと思います。



Rek-O-Kut MODELB-16-H



シャフトが太く良く響く材質でできている



モーター部分は振動吸収のあるゴムが本体との間に挟まれている



2個のゴム製のアイドラーがそれぞれ33、45、78回転をコントロールする



本体上部はアルミの一体成形でできおり、ネームプレートが付いている